

# 4 道路整備

～歩行者と車が共存できる交通環境のまち

## <A 基本計画の目標>

都市計画道路については、都市拠点の整備事業や鎌倉市交通マスタープラン等との整合を図るとともに、都市防災も考慮した道路網について検討し、整備にあたっては、優先順位の高い順から環境に留意し、効果的かつ効率的に進めます。

生活道路については、歩行者等の安全確保を重視した交通環境の向上をめざし、道路整備を図ります。

道路整備の実施に際しては、バリアフリー化や都市景観を考慮した整備に努めます。

道路管理の情報管理システムの構築を図ります。

## <B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	14.4 %	11.3 %	15.2 %	13.3 %	14.3 %	↗

## <C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価>

自己評価

### 【まちづくり政策部】

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 都市計画道路の見直しについては、見直し対象路線の選定の前段階として、各個別路線の検証、見直しの方向性の整理を行っています。	◎
---	---

### 【都市整備部】

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 歩行者等の安全確保のため、今小路通り(六地藏～裁許橋間、L=203m)、小坂小学校周辺(L=634m)、玉縄小学校周辺(L=832m)について歩行者空間のカラー化を行いました。 バリアフリー化の整備として、歩道段差の切下げを行いました。(玉縄四丁目、21箇所)	○
※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 町内会・自治会からの要望により、市内5カ所に計8基の街路照明灯を設置しました。	◎

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

## <D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

### 【まちづくり政策部】

・大幅な道路骨格が変更できないなか、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備をどう進めるかが課題である。



都市計画道路については、見直しを検討する中で、本市の地形や道路特性等を活かした検証が求められており、現在、個別路線ごとに13の検証項目に照らし合わせた検証作業を行っています。その中で「自動車の交通機能」や「歩行者・自転車の交通機能」についての検証を行い、「歩きやすく事故の起こりにくい道路整備」の実現に向けて、事業課と連携し研究を進めていきます。

### 【都市整備部】

・市内の渋滞は相変わらず続いており、抜本的な改善は出来ないにしても、警察等と連携を図り、右折路線の確保、一方通行の検討などきめ細かな対応を検討されたい。



交通の円滑化を目的とする交差点改良の実施に当たり、交通協議を行うなど警察と連携しながら実施を図っている。引き続き、きめ細かな対応に努めていきたい。

・大幅な道路骨格が変更できないなか、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備をどう進めるかが課題である。

既に道路の沿道には家屋が立ち並び市街地が形成されており、既存の道路の骨格の変更は難しい状況にある。歩行者空間のカラー化の整備、歩道段差切下げ及びガードレール設置などの交通安全施設整備を、今後も充実させ、歩きやすく安全な道路整備に努めていきたい。

## <E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

### 【まちづくり政策部】

なし

※未達成の理由<支障となった理由>

### 【都市整備部】

道路の維持修繕について、市民からの要望箇所が多い中、事業費が少ないため、実施が思うように進みませんでした。歩行者空間の整備の実施に伴い、改めて地元及び警察と協議・調整を行ったところ、排水施設に係る問題及び歩行者数が少ないことから、改めて経過観察も含め検討が必要との申し出があったため、事業の実施を見送りました。

※未達成の理由<支障となった理由>

## <F 今後の展開(取組方針)>

### 【まちづくり政策部】

個別路線の検証及び見直しの方向性を整理し、パブリックコメント等の手法を利用して「市民が抱えている問題や路線に対する意見等の把握」を行っていきます。その後、交通量の検証と総合評価等の作業を経て、平成24・25年度の都市計画変更手続を目指し、見直し案の作成を行います。

### 【都市整備部】

実施計画見直しの中で、歩道整備等について実施可能な手法を検討します。  
歩道段差の解消、特定道路の整備の充実、交差点の改良等の事業を推進します。  
市民からの道路の補修要望に迅速に対応するとともに、老朽化した大規模団地等の生活道路の計画的な改修を実施します。  
5年間の取組を通じて、実施計画事業の目標は達成したため、今後は街路照明灯の維持・修繕を行っていきます。

## <G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
歩道整備延長距離 (+)	1年間の歩道整備総延長距離(歩道幅員2メートル以上)	22.2 km	22.4 km	22.4 km	22.4 km	<b>22.4</b> km	24 km	26 km
都市計画道路整備 率(+)	都市計画道路計画延長のうち整備済み区間の割合	33.4 %	35.5 %	33.0 %	33.0 %	<b>33.0</b> %	34 %	35 %
歩道・道路整備の 達成状況(+)	日常利用している歩道や道路の整備が、進んできたと感じる市民の割合	14.3 %	14.9 %	17.3 %	14.4 %	<b>12.5</b> %	24 %	44 %

## <H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	631,042千円	560,511千円	894,833千円					
	(国・県)	17,485千円	47,606千円	173,506千円					
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円					
	(一般財源)	613,557千円	512,905千円	721,327千円					
	人員配置数	29.5人	29.0人	29.7人					
	人件費 (B)	270,108千円	265,218千円	259,840千円					
	総事業費(A+B)	901,150千円	825,729千円	1,154,673千円					
	対前年比		91.6%	139.8%					

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・古い都市計画に対し、由比ガ浜から源氏山への道路整備計画の変更等、現況に合わせて計画の見直しを行っている事は評価できる。対象路線の選定の前段階として、各個別路線の検証、見直しの方向性の整理に期待したい。
- ・歩行者保護のため、歩道の整備、歩行者スペースのカラー化を少しずつ進めている。



### 課題・提言

- ・都市計画道路の見直し作業の成果を注視している。
- ・歩道整備総延長距離が平成19年度以降、一向に伸びていない。
- ・市民が感じている歩道・道路整備の達成状況が低迷したままである。
- ・総合的な交通体系の整備について、行政、住民、交通事業者を含めた実効性のある検討(委員会の設置等)が望まれる。
- ・大幅な道路骨格が変更できないなか、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備をどうすすめるかが課題である。「歩きやすく事故の起こりにくい道路整備」の実現に向けて、事業課と連携し研究を進めてほしい。